

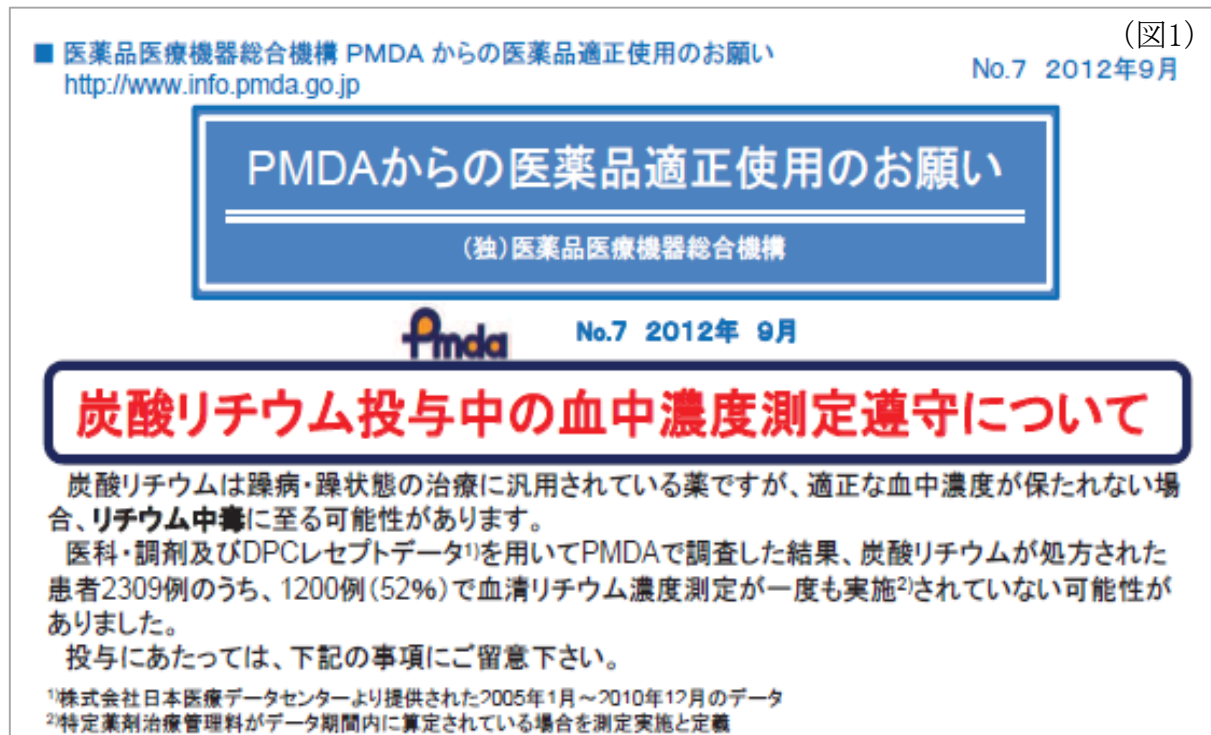
医薬品適正使用につながっています。

躁病・躁状態の治療に汎用されている炭酸リチウム製剤投与患者において、定期的な血清リチウム濃度の測定が十分に実施されていないことがレセプト分析から分かり、当局から「医薬品適正使用のお願い」が発出された結果、改善されていることが分かりました。

PMDAでは従来の調査方法に加えて、レセプトデータベースを用いた医薬品の安全性監視を始めています。

大規模レセプトデータベースを利用した医薬品の適正使用状況を解析した結果、炭酸リチウム使用後の定期的な血清リチウム濃度測定実施を注意喚起するレター(図1)が全医療機関に対して発出されました(2012年)。

(参考)リチウム中毒には、意識障害、知覚障害、発語障害、嚥下障害、筋力低下、小脳症状、ミオクローヌスなどの中枢神経系症状や、不整脈、心電図異常や、嘔気、嘔吐、下痢、腎性尿崩症、遠位尿細管アシドーシス、甲状腺機能低下、成人呼吸促迫症候群などがあり、重篤な場合は入院治療が必要になります。

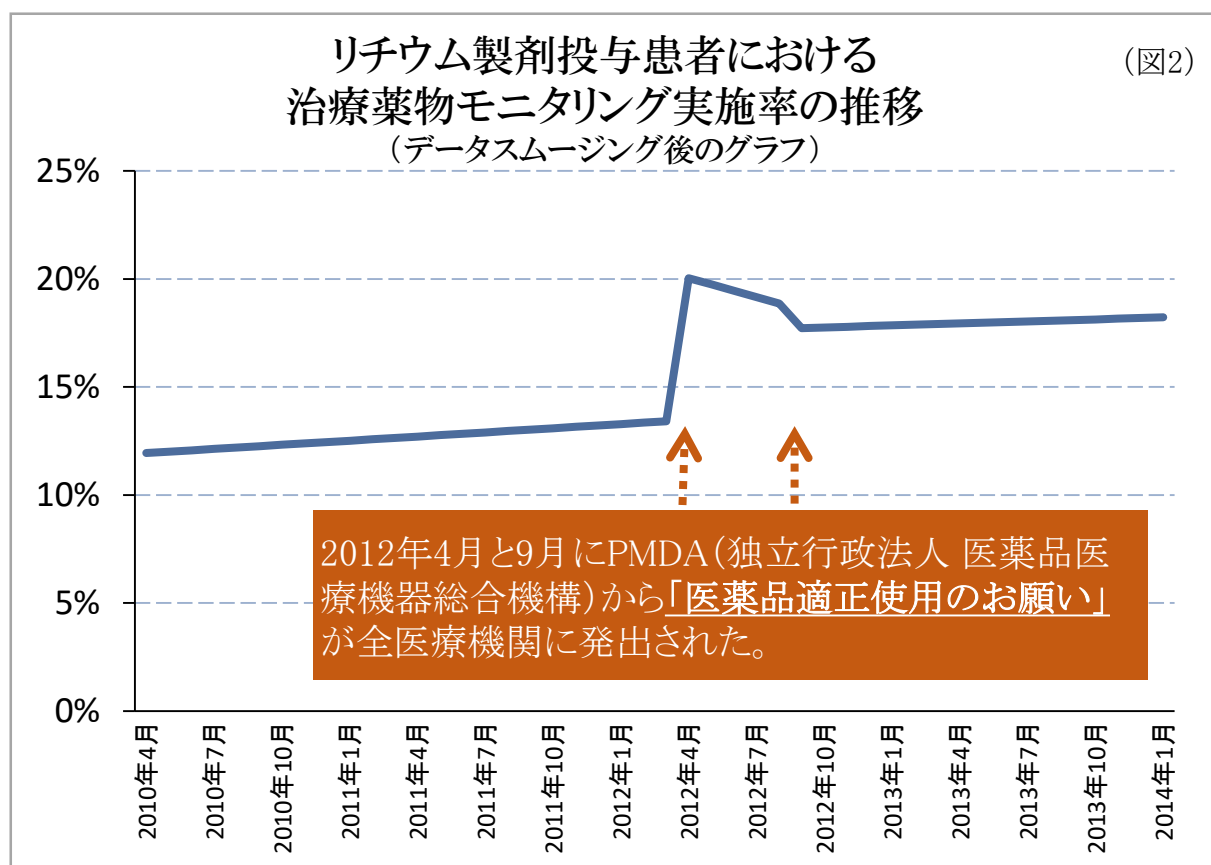


(冒頭部分のコピー)

治療薬物モニタリング実施率の改善が確認されました。

2005年から2014年のレセプトからリチウム製剤投与(136,956処方数、5,823患者数)を抽出し、治療薬物モニタリング(Therapeutic Drug Monitoring: TDM)の実施有無を診療行為によって特定し、2012年の「医薬品適正使用のお願い」の発出前後のTDM実施率の推移をグラフ化したのが図2である。

結果として、医薬品適正使用につながるTDMの実施率は約5ポイント改善していることが分かった。



医薬品を正しく使う必要性

医薬品は有効性と安全性のバランスの上に成り立っており、正しく使用していても副作用の発生を防げないことがありますが、医薬品の使用にあたって大切なことは、「適正な使用」を行うことです。副作用は、言い換えると医薬品によって引き起こされた疾病や病態で、そのために更なる医療費が投下されます。医薬品の適正使用によって副作用を抑制・コントロールすることは結果として医療費の抑制にも寄与します。

分析対象 : 2005年～2014年の間に炭酸リチウムを処方された人
 n数 : 5,823人
 論文名 : Prevalence of Therapeutic Drug Monitoring for Lithium and the Impact of Regulatory Warnings: Analysis Using Japanese Claims Database
 雑誌 : Therapeutic Drug Monitoring
 研究者 : Ooba N, Tsutsumi D, Kobayashi N, Hidaka S, Hayashi H, Obara T, Satoh M, Kubota K, Fukuoka N.